大型キャンペーン続々開催

せとうち観光の拠点・好調の松山城・注目の俳句イベント

愛媛県
松山市

今年は、JR西日本とJR四国の「せとうち」キャンペーンで、松山城の光のイベントが目玉として紹介。今後は、10月1日から12月31日まで、四国プレデスティネーションキャンペーン（四国プレDC）が、いよいよ2017年4月から6月までは四国デスティネーションキャンペーン（四国DC）が開催される。

キャンペーンの目玉は松山城
せとうち観光が定着へ

JR西日本とJR四国が7月～9月に実施している、せとうちキャンペーンの目玉企画のひとつに設定されたほか、来年度の四国デスティネーションキャンペーン期間中の開催も検討されている。

ライトアップにあわせ、日時限定で夜間ロープウェイも運行された。期間中、松山城夜ガイド（期間限定）も実施。

松山城夜ガイド（期間限定）は、夏の夜の新たな楽しみとして、ライトップした松山城をガイド付きで散策。「松山はいく」とは、「俳句の町」松山を専属ガイドと歩いて楽しむ町歩き観光ガイドプラン。ライトアップされた松山城のとっておきビュースポットや松山市内の夜景を紹介しながら、天守まで案内してもらえる。

せとうちキャンペーンに積極参加

JR西日本とJR四国は、7月1日から9月30日まで、穏やかな海と暖かな気候に育まれた、岡山県、広島県、香川県、愛媛県を中心とするせとうちエリアで、せとうちの魅力を提案する「せとうちキャンペーン」を展開。コンセプトは「穏やかな海と暖かな気候に育まれた、美しい風景、豊かな歴史・文化、グルメにアート…この夏、ありのままの日本にふれてください。」。地域ブランドとなるよう、「クルーズ」「宿」「サイクリング」「アート」「食」をテーマにする。瀬戸内海の多島美に加え、2つの世界遺産、牡蠣などの海産物、レモンに代表される柑橘などの農産物、北前船が立ち寄った港町に今も残る歴史的な建築物などエーゲ海や地中海に負けない魅力を持つせとうちの魅力をブランド化し、情報発信していく。

同キャンペーンでは、四国外の首都圏、中京圏、京阪神、北陸、九州の各エリアからの誘客を図った。

観光情報を発信するJR西日本のおでかけ情報ツール、Webマガジンとアプリ「マイ・フェイバリット瀬戸内」も開設。松山城や道後温泉の情報が特集された。

松山は、「広島エリア（広島市内・宮島・呉・江田島）」「福山・尾道エリア・しまなみ海道」「松山・道後温泉」の3エリアを周遊するルートとして提案された。瀬戸内海の風景が楽しめるよう、移動は船でのクルージングをベースとし、周遊途中でサイクリングを楽しみ、宿泊は道後温泉。松山城で夜のイベントを楽しむもの。

「JR西日本　せとうちGOLD RALLY 2016」が7月23日から9月4日まで開催。松山城にもスタンプが設置された。

せとうちキャンペーンでは、周遊に便利な3種の「せとうちフリーきっぷ」を発売。JR利用の旅行商品のオプションとしては、せとうち広島・愛媛パスも発売された。せとうち広島・愛媛自由周遊区間内のJR、指定の船舶・路線バスが4日間乗り放題。広島や愛媛を中心とした瀬戸内エリアを周遊できる着地フリーパス。利用期間は2017年4月3日まで。2017年3月31日の利用開始分まで発売。有効期間は4日間。料金は、おとな6400円、こども3200円。

ゆったり瀬戸内・松山の旅　松山・広島割引きっぷ

定番は、JR西日本が発売している「松山・広島割引きっぷ」。広島と松山を船で結ぶ新しい観光ルート「瀬内海道1号線」を使って、瀬戸内をじっくり、ゆっくり巡る旅が可能。利用期間が4日間あり、広島、松山の観光をゆっくり楽しめるようになった。同きっぷは、「ゆき」「かえり」で別々の経路を組み合わせて発売（同じ経路での往復はできない）。経路①は山陽新幹線「のぞみ（利用列車限定）」（発着駅～広島駅）、JR呉線（広島駅～呉駅）、高速船スーパージェット（呉港～松山観光港）。経路②は、JR特急「しおかぜ」（松山駅～岡山駅）、山陽新幹線（岡山駅～発着駅）。利用できる新幹線を限定したことで、リーズナブルな料金を実現。広島側の自由周遊区間には、新型車両の227系が走る。四国側の自由周遊区間では、普通車グリーン料金を追加することで、松山～伊予大洲間では観光列車「伊予灘ものがたり」に乗車できる（八幡浜駅まで乗車するには、別途乗車券も必要）。料金は、大阪市内発着なら1万4500円。1人からでも購入可能。1カ月前から利用日前日まで購入できる。発売期間は17年3月30日まで。利用期間は、4月2日から17年4月3日までの連続する4日間。

光のおもてなしin松山城2016

フェニックスのオブジェ

松山城からの夕景

松山城からの夜景

高速船スーパージェット

松山城イベントの成功

「光のおもてなしin松山城2016」が7月6日8月13日まで松山城本丸広場（愛媛県松山市）などで開催された。

来場者は、約3万2千人。

来場者には、イルミネーションの鑑賞だけでなく、各スポットでの記念撮影も人気となった。普段は、来場しない時間帯で、地元でもあまり知られていない松山城からの瀬戸内海の夕景や市街地の夜景のすばらしさに驚く人も多かった。

同イベントは、昨年、「松山城×ひろしまドリミネーション」のプレミアム企画として初開催した同イベントの規模を拡大。広島市や関係団体の協力を得て、広島の冬を約140万球の光で彩る一大イベント「ひろしまドリミネーション」で実際に使用する「光の花畑」や「プラチナドラゴン」など25種類の多彩なオブジェを昨年よりも展示を拡大。国の重要文化財で現存12天守でもある松山城の登城道や石垣を光の散歩道にした。

「街歩き旅ノ介　道後温泉の巻」
山口晃　道後アート2016

道後温泉でアートイベント
旅館ホテルでも作品展示

「『街歩き旅ノ介　道後温泉の巻』山口晃　道後アート2016」が2017年8月31日まで開催。画家の山口晃さんをメインアーティストに迎えた。14年度の道後温泉本館改築120周年を記念した「道後オンセナート　2014」から3年連続でアートイベントを開催している。山口さんは大和絵などの日本画の手法を用いた緻密で、ユーモアのある作風で知られる。

会期中、徐々に作品が増えていく予定で、現在、第2弾の作品まで展開中。

山口さんの代表作を道後温泉本館やホテル・旅館のロビー等に様々な形で展示しているほか、山口さんが独自の視点で気になるスポット描き下ろした「道後エトランゼマップ」、また「要電柱」や「見晴らし小屋」等の立体作品も登場しており、道後温泉本館からの広がりが感じられるものとなっている。

9月下旬からは、第3弾の作品がスタート。

道後温泉本館内での作品展示

旅館ホテルでの作品展示（道後プリンスホテル）

新たな温泉施設のイメージ

道後に新たな温泉施設が誕生
飛鳥時代をイメージ

日本最古の温泉といわれる道後温泉

伊予国風土記には、596年、厩戸皇子（聖徳太子）来湯。聖徳太子ゆかりの温泉だ。その後も中大兄皇子など皇室が行幸している。

道後温泉の椿の湯に隣接して、2017年末に約30年振りに新しい温泉施設がオープンする。道後温泉の泉質の良さや、日本最古と言われる歴史の魅力、文化を伝える。施設名は未定。市民の湯である椿の湯に併設されるが、多くの観光客が来訪の際に抱いている道後温泉の魅力を損なうことなく、本館との相乗効果が期待できる施設づくりを目指す。コンセプトは「日本最古といわれる温泉にふさわしい飛鳥時代をイメージした湯屋」。

道後温泉本館が明治時代を代表する近代和風建築の温泉建物なのに対し新たな施設は飛鳥時代をイメージした湯屋を再現した建物となる。道後湯之町初代町長の伊佐庭如矢の精神「どうせやるなら、他所が真似出来ないものを作ろう！」を引き継ぐ。外観コンセプトに、596年聖徳太子来湯の伝説がある飛鳥時代の建築様式を取り入れた特徴的なもの。屋根の上には、道後温泉のシンボルである塔屋と、一対の鴟尾を配置。複数の建物を回廊で囲む伽藍配置など、日本最古の湯をイメージした空間で、日本一のおもてなしの提供を目指す。明治時代の近代和風建築の代表である道後温泉本館と対比させ、二つの時代のお風呂が楽しめる話題性に富んだ道後温泉として、国内外へのPRを行っていく。建物とほぼ同規模となる。構造は耐火性のある鉄筋コンクリート造で、歴史のある菊間瓦や大島石、砥部焼といった地域性豊かな資材を採用するなど地緑性の確かな継承も目指す。建物内では、浴場は、道後温泉の象徴である無加温無加水の源泉かけ流しで、男性50人、女性50人合わせて、定員100人が入れる開放的な大浴場と、新たに露天風呂や皇室専用浴室の又新殿を再現した話題性のあるお風呂を設ける。2階には観光客に人気の給茶サービスがある大広間と特徴的な個室の休憩室を設けるなど、道後温泉ならではのおもてなしの心が感じ取れる施設とする。さらに、現在の椿の湯と新しい施設を回廊でつなぎ、その中央に整備する中庭は、湯上がり後の休憩場所や、地域の祭りやイベントを開催するなど、温泉街をそぞろ歩きする観光客にとって新たな集客拠点を目指す。

は、地下1階地上2階建て、延べ床面積は約1600㎡で、道後温泉本館

俳句を世界へ発信
明治村とも連携

俳都松山大使・夏井いつきさんが登場

観光物産展も盛況

俳都松山キャラバン2016in明治村が5月22日に博物館明治村（愛知県犬山市）で開催された。

松山市と博物館明治村は明治維新150年（2018年）に向けて「明治体感パートナー協定を締結しており、相互の情報発信を行っている。2017年の第20回となる俳句甲子園に向けて、俳句に関する取り組みも注目だ。

今回のキャラバンの主な内容は、テレビで活躍する俳都松山大使・夏井いつきさんによる講演会「十七音が景色を変える」と、囲碁や将棋の対局のような形式で俳句の出来を競う「俳句対局」。明治村トーナメントを同村内の呉服座（重要文化財）で開催。また村内で観光物産展も行った。

呉服座の舞台や物産展では、松山マドンナ大使2016の沖田真優紀さんが松山の観光や物産の魅力を来場者にPRした。

海外からの誘客を図る
「西遊紀行」プロジェクト

松山市は、JR西日本がJR四国、近畿運輸局、中国運輸局、四国運輸局、九州運輸局、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、広島市、廿日市市、山口県、香川県、高松市、愛媛県、今治市、関西エアポートと連携して、海外からの誘客を図る「西遊紀行」プロジェクトに積極的に参画している。

西遊紀行関係商品では、「瀬戸内エリアパス」を利用すると新ゴールデンルート（京都・広島・松山）を外国人観光客が簡単に周遊できるようになる。利用期間は7月1日から通年で有効期間は連続する5日間。料金は海外販売　おとな1万7千円、こども8500円。国内販売がおとな1万8千円、こども9千円。

テーマ型パンフにも注目

インバウンド関連で注目を集めたのが「松山城を攻略」のテーマ型パンフ作成。

松山市のシンボルである松山城は、賤ヶ岳（しずがたけ）の合戦で有名な七本槍の1人、加藤嘉明が防御を追及した難攻不落の城。パンフレットでは「城を攻める」というテーマで、鉄壁の防御を誇る松山城の魅力と、城郭建築の歴史的価値を紹介。

本丸に至るまでの複雑な縄張り（曲輪や門などの配置）や、数多く残される防衛のための櫓や仕掛けを攻略した気分を味わえる。設置場所は松山城ロープウェイ東雲口駅舎（松山市大街道3丁目2―46）となっている。

テーマ型パンフ

今秋は四国プレDC開催
来春はいよいよ四国DC

プレDCスタート

JR四国では、10月1日から12月31日まで、四国プレデスティネーションキャンペーン（四国プレDC）を開催する。

四国プレDC期間中には、四国ツーリズム創造機構が主体となりイベントなど開催される。

9月13日から2017年6月30日まで四国DC「カウントダウンボード」をJR高松駅、JR松山駅、JR徳島駅、JR高知駅、JR四国本社1Fに設置。9月13日には各駅で除幕式も行われた。駅利用者には、四国プレDCガイドブックの配付なども行われた。

JR四国では、プレDC期間中に便利で割安なきっぷの「四国西南周遊レール＆バスきっぷ」などを発売。

四国プレDC期間中のイベントとしては、「四国お城スタンプラリー」が実施される。

四国DCの概要

四国デスティネーションキャンペーン（四国DC）は2017年4月から6月まで開催する。

JRグループと四国4県（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）、四国ツーリズム創造機構などが共同で実施。キャッチフレーズは「しあわせぐるり、しこくるり。」四国を周遊しながら楽しんでもらう旅を提案する。

テーマは「学（まなび）くるり」がカルチャー体験、城、美術館、博物館など。「観（ながめ）くるり」は自然、景色、クルーズ、名勝、旧跡など。「遊（あそび）くるり」がアクティブ体験、祭り、イベント、観光列車など「心（こころ）くるり」はお遍路、「食（ぐるめ）くるり」が、ご当地グルメを指す。

四国DCでは、682の観光素材を用意し、72が新しい観光素材。今秋にはプレDCキャン全国に世界に四国を発信し、四国DC期間中の目標は宿泊客数10%増を目指す。

問い合わせ先
松山市産業経済部観光・国際交流課
〒790-8571　愛媛県松山市二番町四丁目7-2
TEL：089-948-6558　FAX：089-943-9001
http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kanko/